

か み さむらい づ か こ ぶん  
上 侍 塚 古 墳

おお たら わ し ゅ つ か み  
栃木県大田原市湯津上地内

第1回現地説明会資料 令和4（2022）年12月3日（土）

栃木県教育委員会事務局 文化財課  
宇都宮市塚田1-1-20 電話 028-623-3425  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター  
下野市紫 474 電話 0285-44-8441  
<http://www.maibun.or.jp>

栃木県では県内にある重要な遺跡の調査研究とその活用を目指した「いにしへのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業として、侍塚古墳（上侍塚古墳・下侍塚古墳）の調査を実施しています。（公財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが発掘調査を受託し、2年目となる令和4（2022）年度は、昨年度に引き続き上侍塚古墳の墳丘の周囲のトレンチ（試掘溝）調査や昨年度実施した物理探査（地中レーダ探査・電磁探査）の分析を進めています。これまでの調査・分析により得られた成果をご紹介します。

## 1 上侍塚古墳

上侍塚古墳及び下侍塚古墳の両古墳は江戸時代の元禄5（1692）年に徳川光圀が発掘をした古墳としても知られており、昭和26（1951）年に国史跡に指定されています。現在発掘調査を行っている上侍塚古墳は、光圀の発掘以来手つかずのままで、地域最大の古墳にもかかわらず、正確な築造時期や規模などは不明です。なお、墳丘は光圀の調査時に新たに土を盛って修復しており、築造当時の姿は埋もれてしまっていて見ることができません。

### ◇上侍塚古墳（前方後方墳）

総長 154m（推定） 墳長 114m  
後方部幅 58m 後方部高さ 11.5m



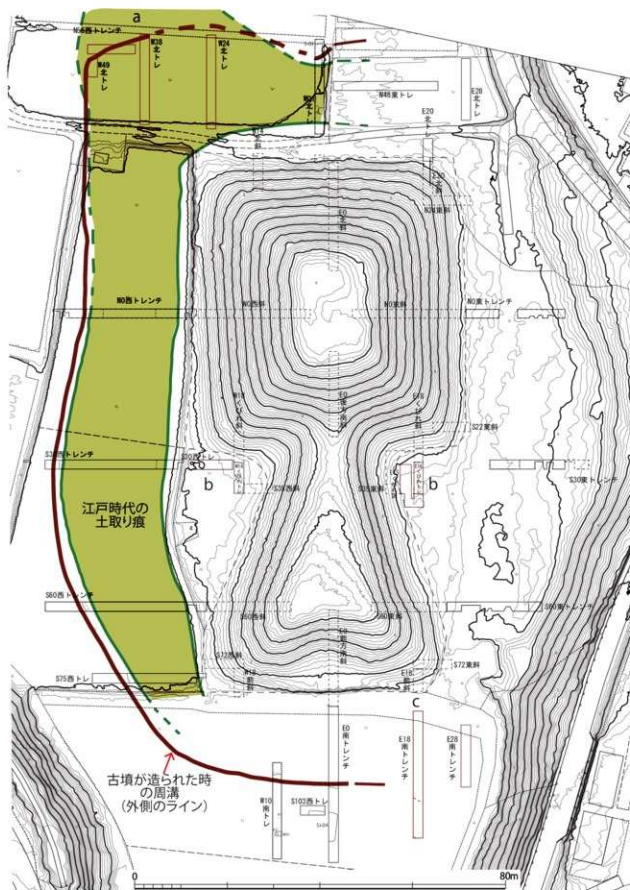
R3年度調査中の上侍塚古墳と那珂川（西上空から）

## 2 昨年度調査の概要

昨年度の発掘調査の結果、古墳の東側には周溝と呼べるような掘り込みは認められませんでした。これは、地山が砂礫層のため掘り下げられなかったことが大きな要因と考えられます。

また、後方部東側は平坦になるよう整形し、くびれ部から前方部は墳丘裾から20mほどをわずかにくぼませるよう手を加えています。一方、古墳の北・西・南では幅約20mの周溝を確認しました。深さは後方部西側で約2mと最も深く、そこから南北に離れるほど浅くなっており、前方部南西では幅もやや狭くなります。一部では葺石と考えられる石敷きが見つかり、墳丘に近い周溝内では葺石が多数転落していました。わずかに土器片も出土しており、墳頂部などから転落した壺の破片が多いと考えられます。また多くのトレンチで江戸時代に掘削した痕跡が確認できました。これは光圀の指示で墳丘修復を行ったという記録からすると、そのために使う土を確保した跡かもしれません。

その他、上侍塚古墳の墳丘と下侍塚古墳の墳頂部について非破壊での物理探査（地中レーダ探査・電磁探査）を実施しました。



### 3 昨年度の課題と本年度の調査目的

昨年度の調査で、古墳の北側と西側で周溝の範囲が判明しました。しかし、北東側と北西側については不明です。くびれ部の状況についても不明確な部分があります。

これらの課題を解決すべく、今年度の調査を開始しました。本年度のこれまでに得られた成果をご紹介します。

#### 4 トレンチ調査の状況

本年度のトレンチ調査は、昨年度調査を行っていない古墳北西側・南東側とくびれ部の調査から開始しました。

##### a 後方部北 (W24北・W38北・N56西・W49北) トレンチ

周溝の北西隅を確認しました。想定していた場所よりも西側で確認されており、上侍塚古墳の北西側の周溝は幅が広く掘られていることが分かりました。

その東側に設定したトレンチ (W24北) では周溝の外側が確認出来ておらず、さらに外側に広がると考えられます。周溝内の墳丘寄りの場所で底が高くなっている場所を確認しました。

後方部北側では、全てのトレンチで江戸時代の土取り痕が確認できます。古墳の周溝外側まで江戸時代の掘削が及んでいることが判明しました。



周溝北西側の状況 (南東から)



W24北トレンチ (南から)



周溝の底が高くなっている場所



周溝北側の状況 (南から)

##### b くびれ部東西 (E15・E18くびれトレンチ、S30西トレンチ)

くびれ部東側では昨年度、古墳築造当時の状況で残っていた葺石を確認しました。今年度はその西側を調査した結果、転落した葺石を確認しています。また、壺の破片や鉢の破片などの遺物も出土しました。墳丘から転落した遺物もあると思いますが、くびれ部での祭祀が行われていた可能性もありますが、最終的な成果は改めてお知らせいたします。

くびれ部西側では昨年度調査を行ったトレンチの西側を調査しています。東側同様に転落した葺石が見られます。また、その場所は平坦にはなっておらず、高い場所と低い場所があります。これは固い砂礫層になっており、平坦に整地出来なかったためと考えられます。



昨年度くびれ部東側で出土した葺石



くびれ部東側葺石出土状況



くびれ部西側葺石出土状況

##### c 前方部南東 (E18南) トレンチ

古墳南東側の周溝の状況を確認するために調査をしています。現在調査中のため未解明な部分も多いですが、縄文時代の遺物も比較的多く出土していることから縄文時代の集落が周辺に存在するかもしれません。

## 5 物理探査の分析

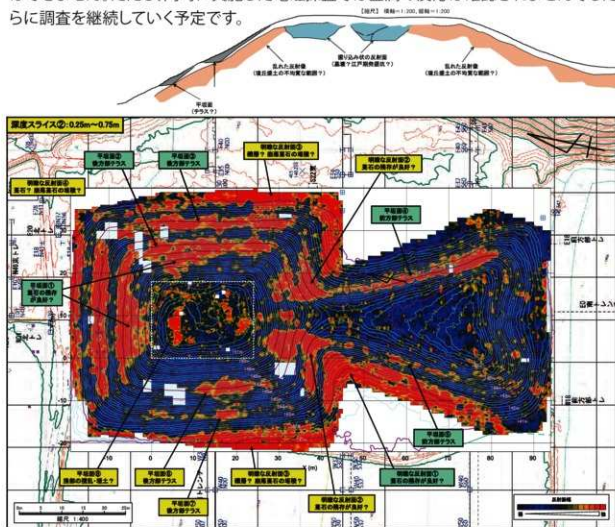
昨年度、上侍塚古墳で実施した地中レーダ探査の結果を分析し、分かってきたことをご紹介します。

### (1) 墳丘の構造

現状は段差のない斜面となっていますが、地中レーダ探査の結果を分析すると墳丘に段が作られている可能性が高いことが分かりました。前方部は2段に、後方部は3段に造られているようです。また、葦石が良好に残っている場所や、崩れた葦石が溜まっている場所もあるような反応がありました。

### (2) 墳頂部の状況

徳川光圀が発掘調査を行った際に出土した遺物を収めた松材の箱が2.4m下に埋められたことが記録に残されています。レーダ探査の結果を見ると現在の墳頂部の1.5m～4m下に掘り込みを示す反応がありました。この反応は江戸時代の掘り込みの可能性もありますが、確定はできません。ただし、同時に実施した電磁探査では金属の反応は確認されませんでした。さらに調査を継続していく予定です。



上侍塚古墳発掘調査の速報は、栃木県埋蔵文化財センターのTwitterでも発信しています。また、埋蔵文化財センターのHPでは、侍塚古墳に関する特設ページを設けています。特設ページでは、1975年の下侍塚古墳の調査の写真や、江戸時代の徳川光圀による調査記録についてご紹介していますので、ぜひそちらもご覧ください。



侍塚古墳  
特設ページQRコード